

伊勢志摩満喫 途中で治療

透析患者ツアー 一始動



人工透析患者向けに伊勢志摩地方の旅行誘致に取り組んでいる事業参加共同体「伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム」(宿泊や旅行業など7企業・NPO法人で組織、吉川勝也代表)が、本格的な事業化の準備を整えた。まず、今月から初契約した大手旅行会社が個人旅行を受け付けている。06年度の活動を通じて、対応可能な宿泊施設や病院を増やすなどして、受け入れ態勢がほぼできた。

(岡本真幸)

宿・病院の態勢整う

5月の個人旅行は、コンソーシアムにも参加している近畿日本ツーリストの京都支店(075・221・7401)が主催。東京発着の18日から3泊4日の日程で、往復

このコンソーシアムの活動は05、06年度の2年間、経済産業省からサービス産業創出支援事業(集客交流部門)の一環として委託された。今年度からは国の支援なしに活動する。

05年度は無料の調査ツアー、06年度は一部有料の模擬ツアーとして実施された。今年1月には志摩、鳥羽両市で2泊3日であった。患者らは人工透析を受けながら英虞湾クルーズや水族館のペンギンタッチ、鳥羽展望台

模擬ツアーでの海女小屋体験。豪華な魚介類も食べられる。志摩市で、伊勢鳥羽志摩交流フロントコンソーシアム提供

からのリアス式海岸眺望などを楽しんだ。夕食は豪華な地元の魚介類を使いながらも塩分、カリウムなどを控えめにした特別メニュー。料金は透析費用を除いて4万5千円(ホテルのタイプによっては5万9千円も設定)だった。

参加者は、広島市の70歳と60歳の透析が必要な男性2人。最終日のコンソーシアムのヒアリングに対し、1人は伊勢志摩を実感できた観光として海女小屋体験を挙げ、「海女さんと話しながら、取れたての魚介類を焼きながら食べたのがたいへん良かった」と回答。「山菜を採ったり、釣りをしたりして、その材料を料理して食べるなどの体験型の内容がある」と楽しいとの要望もあった。

06年度にコンソーシアムが取り組んだ態勢整備では、宿泊施設を3カ所から11カ所に増やし、パリアフリー対応が必要な場合でも45人は宿泊可能になった。透析対応施設

は、伊勢志摩地方の7病院に、中勢地方の14病院を加え、1日200人以上が透析可能になった。この結果、宿泊は伊勢志摩地方でも、津市や松阪市周辺でも観光ができるようになった。

コンソーシアムによると、透析患者は全国に約27万人おり、そのうち約10万人が旅行可能と見られている。伊勢志摩地方の年間観光客約1千万人に比べると少なく、それだけでは地域活性化に結びつかない。

しかし、人工透析患者向けツアーは地域を挙げた障害者受け入れ第一歩で、非常に高いハードルの透析患者対応に参加者が満足して帰ってもらえれば、ノウハウは他の障害にも応用できる。高齢者や、1600万人を超える糖尿病患者にも対応できれば、市場の拡大が期待できるとしている。

事業の問い合わせはコンソーシアム代表団体のサン・サービス(059・9・26・5818)へ。